

大分市総合計画第2次基本計画検討委員会 第4回 都市基盤部会 議事録

◆ 日 時 令和元年11月15日(金) 10:00～11:30

◆ 場 所 大分市役所議会棟 3階 第4委員会室

◆ 出席者

【委員】

安藤 美佐子、亀野 辰三、福嶋 崇、福山 公博、利光 正臣、脇 紀昭、藤田 敬治、
貞苅 路也(計8名)

【事務局】

企画課参事 後藤 応寿、同参事補 首藤 賢司、同専門員 太田 英治(計3名)

【プロジェクトチーム】

建築課専門員 加藤 雄一郎、都市計画課主任 平林 拓朗
公園緑地課参事補 加藤 公男、上下水道局経営企画課主査 帯刀 鉄平
上下水道局経営企画課主事 岡本 有未(計5名)

【オブザーバー】

なし

【傍聴者】

なし

◆ 次 第

1. 開会
2. 議 事
 - (1)第3回部会が出た意見について
 - (2)中間提言(案)について
 - (3)その他

<第4回 都市基盤部会>

事務局	<p>ただいまから大分市総合計画第2次基本計画検討委員会、第4回目の都市基盤部会を開催いたします。</p> <p>まず開会に当たりまして、本日は樋口委員が所用のため欠席ということでご連絡をいただいておりますので、ご報告申し上げます。</p> <p>続きまして、お手元に配付している資料の確認をお願いいたします。</p> <p>まず、本日の次第、それから座席表、A3横のサイズの総合計画検討委員会部会での意見及びこれに対する市の考え方等の様式、それと中間提言書の案、素案の新旧対照表、こちらには現行計画と素案、それとその素案に対する意見をいただいて、その意見を反映させた修正案を示しております。皆さん、資料はおそろいですか。</p> <p>それでは早速、議事に入っていきたいと思います。議事の進行につきましては、検討委員会設置要綱第7条第4項により、部会長が行うこととなっておりますので、亀野部会長、よろしく願いいたします。</p>
部会長	<p>皆様、改めまして、おはようございます。本日は早朝よりお集まりいただきまして、ほんとうにありがとうございます。心より感謝しております。</p> <p>早速、議事に入らせていただきますけれども、また、これまでと同様に委員の皆様方からは積極的なご意見を頂戴いたしますようお願い申し上げます。冒頭に簡単ではありますが、部会長の挨拶とさせていただきます。</p> <p>それでは、次第に従いまして、議事を進めさせていただきます。</p> <p>議事の1番目は、第3回部会、前回に出た意見につきまして、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、こちらのA3の横のサイズの資料をごらんください。それとあわせて、先ほどご説明しました新旧対照表もごらんになっていただければと思います。</p> <p>こちらの部会で出た意見、それに対する市の考え方については、全部は読み上げませんが、主に素案に修正をかけたものを中心にご説明をさせていただきたいと思います。</p> <p>それでは1ページ目の48番から53番までをごらんください。こちらは、交通に関するKPIIについてです。自転車の利用環境の充実といったところを、KPI、目標指標に取り込めないかというようなことをご意見としていただいておりますので、市のほうで検討しております。</p> <p>当初、自転車ネットワーク整備延長というものを目標指標として新たに設定することを検討しました。現行の個別計画として大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画というものがございまして、そちらのほうにその指標があり、そちらが令和2年度までの計画期間となっております。現在、改定の準備をしているところで、現時点では、この総合計画の2024年までの目標値として、定めることが困難な状況にございますので、今回、総合計画の指標としては採用することは見送らせていただきました。</p> <p>しかしながら、自転車の利用環境の整備は重要な課題であるという認識を本市として持っておりますことから、先ほどの個別計画のほうでしっかりと各種施策を積極的に展開しながら管理していきたいと考えております。</p> <p>続きまして、63番から65番をごらんください。こちらは、「ふれあい交通」運行事業について、公共</p>

交通と絡み合わせながら地域と連携をとることとか、もつと公共交通との兼ね合いの部分を明確にしてほしいというご意見をいただいております。

「ふれあい交通」については、ほかの公共交通機関との乗り継ぎ環境の整備につきまして、本市としても重要な課題と認識をしておりますことから、素案のほうを「地域の関係者との協働や交通事業者との連携により、公共交通の不便な地域等における日常生活に必要な交通路線の確保を図ります」というふうに修正を行っております。

続きまして、69番をごらんください。コンパクトプラスネットワークシティというものについて、どこをどう結びつけるのかということが非常にわかりにくいので、ぜひわかりやすくしてほしいというご意見をいただいております。

市の考え方といたしまして、各地区拠点を結ぶネットワークにつきましては、拠点間連携軸というものを設定するようにしております。その拠点間連携軸の設定に当たっては、市民ニーズに応じたネットワークの設定が求められることから、今後新たなネットワークの設定が求められるなど、需要の変化等に合わせて継続的な取り組みを続けてまいりたいと考えております。

併せて、多極ネットワーク型集約都市の目指すべき姿について、よりわかりやすい表現となるように、素案を修正しております。「市域全体の暮らしやすさや活力の維持・増進につながり、だれもが将来にわたり身近な場所で安心して暮らし続けることができる多極ネットワーク型集約都市の形成に向け、まちづくりと連携した持続可能な公共交通の在り方を検討します」というふうに修正をかけております。

続いて、70番から72番をごらんください。広域交通ネットワークのところ、豊予海峡ルートのこと、四国と大分をつなぐところについて、防災の観点からも、より力強さ等が欲しいということをご意見としていただいております。

昨今の震災とか豪雨の関係からも、広域的防災に資するネットワークの重要性が増していることから、「リダンダンシーの確保」という言葉を素案に追記しております。

また、豊予海峡ルートに関しましては、九州・四国の関係機関や民間団体等が一体となって取り組む必要があるため、「相互に情報共有や交流を行う中で」という文言を追記しております。

続きまして、74番をごらんください。西大分港をネットワークでつなげないのか、また、公共交通をうまくネットワークしていけば、いろいろな意味で非常に住みやすい、移動のしやすい都市になるのではというご意見をいただいております。

西大分港の「フェリーさんふらわあ」への接続方法につきましては、路線バスや鉄道でのサービスが現在提供されております。また、今後も引き続きネットワークの維持及び利便性向上に向けて、交通事業者や県など関係機関と検討し、移動のしやすい都市を目指すことを表現したいと考えておりますことから、素案について「地域間の連携や交流の促進、リダンダンシーの確保、物流の機能向上等を図るため、港湾、空港の機能充実や、道路の整備を促進するとともに、公共交通ネットワークの維持・利用促進に努め、有機的な広域交通体系の確立を関係機関等と連携して進めます」と修正をしております。

続きまして80番をごらんください。水道施設の強靱化のところ、業者の育成的なものも加味してほしいというご意見をいただいております。

水道局が今行っております取り組みを回答として載せております。令和元年度より、排水管等維持管理業務委託を民間委託する中で、職場研修等を共同で実施し、技術の継承や地場企業の育成

<p>部会長</p>	<p>支援を図っております。今後は、防災訓練の参加等による危機管理対応の向上も含め、災害時の応援体制を確立していきたいと考えておりますとしております。</p> <p>続きまして、90番をごらんください。地籍調査の関係で、もっと具体的に書いたほうがいいのではないかとご意見をいただいております。</p> <p>地籍調査の推進につきましては、災害後の円滑な復旧・復興を図る上で非常に重要な取り組みであると認識しております。今後は、防災対策に限らず、都市開発や社会資本整備に関連する各種事業と連携を図るなど、地籍調査のさらなる推進に取り組む必要があると考えておりますことから、素案の2カ所について修正を行っております。一つ目としては、「市街地の整備等に当たっては、低・未利用地の有効活用など、効率的かつ都市の健全な発展に資する土地利用を図るとともに、緑の保全や創造、景観、防災などに配慮し、周囲の環境との調和、宅地等の安全性の確保に努めます」、もう一点は「都市基盤の整備や大規模災害時の復旧復興に備え、地籍整備のさらなる推進を図ります」としてあります。</p> <p>続きまして、95番をごらんください。密集市街地のことについて意見をいただいております。</p> <p>前回の場では密集市街地の場所をお答えさせていただいたんですけども、現在、浜町・芦崎・新川地区などで密集市街地の整備を行っており、その密集市街地の整備が来年度で解消する予定となっております。ただ、引き続き同地区での住環境整備を進めていくこととなっておりますので、主な取り組みである密集市街地における居住環境の整備につきましては、「狭あい道路や行き止まりが多いなど、都市基盤の整備が不十分な地区については、」と言いかえ、住環境の整備に努めると、素案の修正を行っております。</p> <p>その下、96番をごらんください。こちらは、ほかの部会から意見が出ておりました。人口減少に伴って空き家・空き地対策が大きな課題となっているので、そのことを書くべきではないかということで、ご意見をいただいております。空き家の部分が都市基盤部会に関連してきますので、それについて回答をしております。</p> <p>空き家に関する本市の取り組みといたしましては、総合計画の中で「良好な居住環境を阻害する老朽危険空き家の除却を促進します」と表記しておりますので、素案としてはこのままとさせていただきたいとしております。</p> <p>また、具体的な取り組みといたしましては、不良状態にある空き家については、市民より相談があった場合には、空き家等対策の推進に関する特別措置法に基づき適切な指導等も行っておりますし、場合によっては大分市による代執行を行うこともございますという回答をしております。</p> <p>また、空き地に関しましては、第6部のほうで回答をしております。</p> <p>以上、駆け足でしたが、前回の部会の中で出た意見に対する大分市の考え方を説明させていただきました。説明は以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま、事務局より第3回のこの部会で皆様方からご意見等を頂戴いたしましたので、その回答等、あるいは素案への修正等を含めて、ご回答いただきました。</p> <p>この件につきまして、前回皆様方からいただいたご意見に今の回答でよろしいかどうか、ご自分のご意見に適切に回答がされているかどうかを含めて、ご意見、ご質問等を頂戴できればと思っております。どなたからでも結構です。</p>
------------	---

	<p>どうぞ。</p>
事務局	<p>一つ補足ですけれども、70番からの公共交通ネットワークの強化のところ、リダンダンシーという言葉がありました。これは、東日本大震災の後、やっぱり道路というのは幹線だと、それが潰れたときに交通が麻痺してしまうということで、多重性と言い方をするんですけれども、わかりやすく言うと、複線化、う回路の確保です。普通の回路ではなくて、幹線を二つ、2本3本と通しておくということで、災害があっても1本潰れても、ほかの2本の幹線は生きている、そういうものを今から目指していかないといけないということで、そうしたものをリダンダンシーの確保という言い方をしています。それをつけ加えております。</p>
部会長	<p>大変難しい言葉ですが、どこか最後のほうに難解な用語についての説明は、説明文等に入るのでしょうか。</p>
事務局	<p>そうですね。現行の総合計画の中にもありますけれども、用語の解説というのを最後のほうにつけるようになっておりますので、今回つけ加えたいと思います。</p>
部会長	<p>それでは皆様方からご意見を頂戴したいと思います。前回、自分で発言したところの回答文を主に見ていただきまして、これでよろしいかどうか等、何かありますでしょうか。</p> <p>事務局から主に説明があったところは、絞って説明いただきましたので、その他省略したところもあるんですね。それも含めて、もしご意見等ありましたらお願いいたします。</p>
委員	<p>私も、リダンダンシーという言葉をはじめて聞いたので、今ネットで調べたんですけど、多重性とか、非常に難しい言葉ですね。多分聞きなれない言葉じゃないのかなと。ほかのやつも探っていくと、いろいろ書いてありますけど。何か非常に難しい言葉を使っているんで、何かもう少し柔らかい言葉にできればいいのかなとは思うんですけれども。</p> <p>確かに災害が起きたときに、二重三重に求めておくというのは非常にいいことなので何か……。これを当然市民の方に意見を求めるんですね、この後。</p>
事務局	<p>そうですね。</p>
委員	<p>ですよ。これは何じゃいと言われたときに、多分説明書きは入ると思うんですけれども。</p>
部会長	<p>パブリックコメントでは入らないでしょう。</p>
委員	<p>これ、入らないですか。用語的に。</p>
事務局	<p>最終的には入ると思うんですけれども。</p>
委員	<p>これ、ずっと見ると、まとめた一番最後を見ると、何か用語の説明、いろんなのが入るとるんですけど</p>

	れども。リダンダンシーだけは入っていないんですよ。
事務局	そうですね、今現在は入れていないですね。
委員	入れないと。もう少しわかりやすくしないと、ちょっと。わかんないと思いますね。
部会長	多分わかんない。何か言いかえがこれ可能でしょうか。パブリックコメントを求める段階では、基礎用語の解説等は入らないんじゃないですか。最終的には入るにしても。
委員	一応国土交通省が使っているものなんですよ。だから多分、市役所としても役所が使っている言葉として、国土交通省が使っているの、それ以外の言葉ととられるほうが嫌だというのはあるのかなと思うんですけども。技術用語と一緒になんです。まさに解説を加えるということがいいんじゃないのかなと思います。国土交通省のホームページにも解説がありますし。
委員	書いていますもんね。国土交通省のも入っていますから。
事務局	パブリックコメントのときにも、用語解説をつけるようにしたいと思います。
委員	ぜひお願いいたします。パブリックコメントの段階からつけていただければですね。まず日常生活では使われたことはないでしょう。
委員	国土強靱化とかもレジリエンスとか言いますよね。 あれも使わないんですけど、技術用語として使われてしまっているの、これは仕方がないのかなとは思いますが。
部会長	そのほか、委員の皆様でお気づきの点がございましたでしょうか。どうぞ。
委員	素案の修正等については、特に問題はないんですけども、ちょっと気になるのが例えば環境との問題の関係で、いわゆるスローモビリティの問題、この辺は環境が何かで出てきている、それとも公共交通との連携とかいうのは。
部会長	確かに、グリスロと言われるんですよ。グリーンスローモビリティ。
委員	大分市も今年から車を購入、実はもうするように言っておりました。でも、現実これから展開で、地域との連携で車を、バスを動かすような予定もあるものですから。その辺がどうなのかと思って。
部会長	MaaSとの関連で触れておいたほうが、今後大分市にとっても優位性を保つ一つの武器になるのではないかなと思うんですね。

委員	さっきの言葉の難しさですが、スローモビリティとか言われても、なかなかわかりにくい。
部会長	ましてや、MaaSと言われても、何のこっちゃって。 これは事務局、いかがですかね。スローモビリティとか、MaaSとの対応等、公共交通の箇所に入れなくてもいいのか。重要な指摘だと思いますね。
事務局	そうですね、ちょっとグリーンスローモビリティについて直接的に書いてあるところというのは見当たらないので……。
委員	載せるとしたら、どこになるんですか。
事務局	環境は6部の関係になります。
委員	環境になるわけ。
事務局	はい。5部のほうでは、新たなモビリティという言い方をしております。
委員	新たなモビリティ。
事務局	新たな公共交通システムの導入ということで。
部会長	そこに、例えば、グリーンスローモビリティのような新たな公共交通というふうに、ちょっと枕詞を入れれば、より市民にもわかるかと。
事務局	5部のほうで書いてあるのは、自動運転車両など新たな公共交通システムの導入の必要性等について検討しますというふうに記載をしております。
委員	自動運転ということですね。ああ、なるほど。
事務局	ここに入れるとすれば、グリーンスローモビリティを入れるかですね。
部会長	でも、スローモビリティ自体は自動運転に入らないからですね。4人乗り以下の定義がありますから。 自動運転だけだとちょっと対象を絞り過ぎるかな。だから、スローモビリティや自動運転のような、新たなとかですかね。わかりやすい言葉を入れれば。
委員	ちょっと公にはできないような感じではあるんでしょうけど、今後かなり距離を伸ばしてやっていこうかという。他の委員さんも出していましたね、自動運転技術のことについて。だから、少しずつ距離を

	<p>伸ばしながら、地域間同士のその辺のところも、どうもこれから見え隠れするようなことも言っていましたよね。ちょっと気にはなったので。</p>
<p>委員</p>	<p>大事なところだと思いますね。高齢社会がこれからどんどん加速度的に進展しますので、自動運転とかスローモビリティが非常に重要な課題になると思います。公共交通のほうで。</p>
<p>委員</p>	<p>もうちょっと早く言えばよかったですよね。</p>
<p>部会長</p>	<p>これは事務局、修正可能ですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ちょっと6部のほうとすり合わせを行いまして、どういう表現がいいかというのは検討したいと思います。</p>
<p>部会長</p>	<p>すり合わせをしていただければいいですね。お願いします。 そのほか、何かありますか。どうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>80番と83番の防災に対してです。「災害時の応援体制を確立していきたいと考えております」と書いてありますけど、上下水道部は多分、管工事の人と災害協定等を結んでいると思うし、我々建設業界も大分市と結んでいるんですけども、シミュレーションっていうのは机上で書いているのよね。実際、有事になったときにそれがうまく回るかどうかというチェックを、この前やったんです。一回もたから出して、全員に通達して、末端まで行き渡って、また発信元に戻るかということやってみたんですけども、そこら辺の支障が出ることもありましたので、大分市もそこら辺を、具体的にやってみたほうがいいんじゃないかなと思います。</p> <p>前回言ったBCPっていう、これ、中央会も取り組んでますけど、事業継続計画の中に、水道屋さんって特にそういう認識がまだないんで、実際、水害、災害があったときに、会社が果たして存続をできるのかどうかことを含めてなので。これは国にもお願いしているんですけども、九州地方整備局も今遅れています、関東とか東北は確立しているんですけども。</p> <p>そこら辺をまだ取り組んでいないのが現状で、我々建設業界の中にも何社かしか持っていないです、まだ。とっていないです。ここら辺は大分市はぜひ積極的に進めていただいて防災体制をしとかないと、いろんな災害が今起きますので、ライフラインの確立ということから考えて、復旧は急ぐと思うので、そこをもうちょっと突っ込んでいただきたいなと。</p>
<p>部会長</p>	<p>事務局、いかがでしょう。利光委員からは、災害時の応援体制のライフライン、例えばBCPの確立のような、災害時の応援体制を確立したほうがよいというふうなご意見だと思いますけれども。要するに災害があった場合に、事業体が継続して事業できるような仕組みをここでうたったほうがよいのではと。</p>
<p>事務局</p>	<p>総合計画の素案の中にも、上下水道BCPとかいう言葉を入れておりますので、引き続きこれについては積極的に取り組んでいきたいと、原課のほうは考えております。</p>

委員	管工事の連中と意見交換する中で、発注元のほうが強く言ってくれれば、会員さんもそれとろかなという感覚が出てくると思うんです。そういうのを働きかけていただければいいかなと。
事務局	そうですね、それは逆に原課のほうにしっかりと働きかけるように伝えたいと思います。
部会長	そのほか、ご意見等よろしいでしょうか。
委員	(なしの声)
部会長	また何かありましたら、最後のほうでそのような時間を設けたいと思います。 それでは、2番目の議題に移らせていただきます。 中間提言案につきまして、事務局より説明をお願いいたします。
事務局	中間提言書の案について、説明をさせていただきます。 前回、第3回目の部会の中でもお伝えをしておりますけれども、本部会の最終目標といたしましては、これまでいただいた意見をもとに最終の提言書というものをまとめるようになるわけですが、本日は、中間提言書案をお示しさせていただきます。委員の皆さんからご意見をいただきたいと考えております。 そちらのご意見を反映させまして、11月25日に代表者会議が行われます。その代表者会議を経て、市長へ中間提言書を提出するような流れになっております。こちらの中間提言の修正につきましては、修正内容の最終確認を部会長に一任していただきたいと思います。それでは、全体についてから。
事務局	それでは都市基盤部会からの提言ということで、まず、(1)の全体についてというところを私のほうから説明させていただきます。 都市基盤という部会ということで、これまでの社会情勢等を踏まえた中で、今後のあり方をいろいろ提言してもらいましたが、総合的な話で書いております。読み上げます。 超高齢社会の進行や人口減少社会の到来に加え、これまで整備してきた都市施設の老朽化が進む中、将来にわたり持続可能な魅力あふれる大分市を実現するため、地域の現況や特性を考慮し、地区の拠点を中心としたコンパクトな都市づくりと交通ネットワークとの連携による長期的なビジョンに立った、市民とともに築くまちづくりが必要である。 超高齢社会、それから人口減少に大分市も入りました。都市基盤、これまで新産都以降に整備した施設が老朽化しております。こういう状況の中で、やっぱり大分市を風格とか魅力あふれるものを広く継続していくためには、やっぱり都市機能をコンパクトにして、各交通ネットワークの連携を充実させるということ、何より、意見が出ましたけれども、市民とともにまちを築いていかないといいけないということで、全体的な意見としては、こういう提言にまとめさせてもらっております。

PT	<p>続いて、(2)の快適な都市構造の形成と機能の充実について、提言を読み上げさせていただきます。</p> <p>まず、一つ目の提言ですが、こちらは、大分市立地適正化計画、昨年度策定した計画で得られた基本的な方向性や評価指標等を今回の計画に反映して整合性を取るべきではというご意見をいただきましたので、提言の内容としまして、将来にわたって持続可能な多極ネットワーク型集約都市の形成に向け、高度で多様な都市機能の集積・強化による中心市街地の魅力向上を図るとともに、旧市町の中心部など歴史的に地区の中心的な役割を担ってきた各地区拠点においては、地区の特性を生かしたまちづくりを推進することにより地域活力の維持・増進を図り、さらには、各拠点間を相互につなぎ、交流・連携の骨格となる交通体系の形成・強化を進めることが重要であるという表現にしております。</p> <p>次に、二つ目の提言ですが、多極ネットワーク型集約都市、あるいはコンパクトプラスネットワークシティというまちづくりの基本的な方針に対しまして、拠点間の連携軸の設定についてわかりやすく表現するなどといったご意見をいただきましたので、各拠点間のネットワークの設定に当たっては、市域全体の暮らしやすさや活力の維持・増進につながり、誰もが将来にわたり身近な場所で安心して暮らし続けることができるよう、市民ニーズに応じた拠点間連携軸について検討を行うことが求められるという表現にしております。</p> <p>三つ目の提言は、中心市街地の駐車場化等に対する都市の魅力低減についてご意見をいただきましたので、中心市街地等における空き地の駐車場化など都市のスポンジ化への対策や低・未利用地の有効活用等について取り組みを進めることが必要であるという表現としております。</p> <p>四つ目は、地籍調査のさらなる推進の必要性についてご意見をいただきましたので、提言の内容を、防災対策に限らず、都市基盤整備事業等との連携を図るなど、地籍調査のさらなる推進を図ることが必要と整理させていただいております。</p> <p>五つ目は、鉄道とバスのネットワークはもちろん、フェリーなど港湾施設等とのネットワークの必要性についてご意見をいただきましたので、鉄道各駅と路線バスのネットワークはもとより、港湾施設等へのアクセス性の向上など、人の流れ、物の流れを促進するネットワークの構築に向けた取り組みが求められるとしております。</p> <p>続いて六つ目の提言、こちらは公共交通の不便な地域における「ふれあい交通」などの交通手段の利便性向上に関するご意見をいただきましたので、公共交通の不便地域等における生活交通路線の確保においては、各種公共交通機関等との乗り継ぎ環境の向上など、利用者の利便性の向上が求められるという表現で整理しております。</p> <p>七つ目は、自転車を生かした魅力あるまちづくりと安全な自転車走行空間の必要性等についてご意見をいただきましたので、魅力的な都市の創造、環境負荷の低減といった観点から、シェアサイクル事業の展開、自転車利用の促進を図ることはもとより、自転車走行空間の整備など、安全・安心・快適に走行できる環境づくりを進めることが必要であると整理しております。</p>
事務局	<p>豊予海峡ルートについてです。豊予海峡ルートについては、非常に重要な話ということと、官民挙げた交流もやっていってほしいということで、豊予海峡ルートなどの広域ネットワークの整備は、大分市の将来を考える上で非常に重要なことである。今後も大分市をはじめ、官民の関係機関が交流や情報共有を行う中で、一丸となって豊予海峡ルートの実現に向けて取り組む必要があるというふうにして</p>

事務局	<p>おります。</p> <p>続きまして、ICTの活用について、より戦略的に進めていく必要性というものをご意見としていただきましたので、世代としてのデジタルネイティブの割合が今後ますます増え、「第4次産業革命」の前夜と呼べるような状況の中で、活力ある地域経済・産業を育成し、豊かな大分市を実現するために、ICTの活用を戦略的に進める必要がある。その一つ的手段として、オープンデータの公開について積極的に取り組むことが重要であるというふうに表示させていただいております。</p> <p>続いて、公衆無線LANの整備目標について、もっと積極的に取り組むべきではないかというようなご意見をいただきましたので、魅力ある観光地である大分県の県都として、観光先進都市を参考に公衆無線LAN環境の整備に取り組む必要があるというふうに表示させていただいております。</p> <p>続いて、IT人材の育成について、この分野こそが重要であるというようなご意見をいただきましたので、加速する情報化に対応するため、IT人材の育成や情報格差是正などへの取り組みを行うことが重要であるというふうに表示させていただいております。</p>
PT	<p>続きまして、(3)安定した生活基盤の形成についてです。</p> <p>まず、上下水道におきまして、上水道におきましては水道施設の強靱化に関するご意見、下水道では汚水処理の普及に関するご意見等をいただきましたことから、案のように、上水道や下水道について、耐震化や老朽管の更新を計画的に進めるとともに、普及啓発や使用料収入確保の取り組みを検討する必要があるとしております。</p>
PT	<p>(3)の二つ目ですが、本市におきましても空き家に関するさまざまな課題の解決に取り組んでいるところですが、空き家の利活用方法については今後も検討していく必要があるとの趣旨のご意見をいただきましたので、今後は空き家が増加することが予想されるため、空き家等については、移住者の住宅確保の支援として活用するほか、地域コミュニティの維持及び活性化のために有効な取り組みをさまざまな視点から検討する必要があるとの表現にしております。</p> <p>三つ目ですけれども、現在取り組んでおります住宅施策では、高齢者の支援とともに子育て世帯への支援を柱として取り組んでいるところでございますが、今後も子育てのしやすい居住環境を整えていく必要があるということで、子育てのしやすい安心して生活できる住まいづくりを推進し、将来にわたり安全で暮らしやすい居住環境を形成していく必要があるという表現にしております。</p>
PT	<p>続きまして、公園の部分ですが、まず日ごろから公園の施設の安全管理、維持管理の必要性があることから、また、災害が発生した場合の公園の位置づけについての表記が必要ということから、公園の遊具やベンチなどの施設でけがなどの事故が起こらないよう安全対策や適切な維持管理に努めるほか、災害時に避難所として利用が考えられる公園には、防災機能の整備や多目的トイレの設置、出入口の段差解消など、公園施設のバリアフリー化を図る必要があると表現させていただきました。</p> <p>続きまして、地域の特性や新たな市民のニーズに対応していく必要があるということから、民間活力の導入についても積極的にとの意見をいただいておりますし、また、大友氏の遺跡や城址公園などの公園の整備につきましても大分市の公園整備の重要な一つと考えていますので、次のように</p>

	<p>表現をさせてもらっています。地域の特性や新たな市民のニーズに対応した公園として民間活力の有効な活用方法についても具体的な検討が求められるほか、大友氏遺跡や大分城址公園などの歴史的文化遺産を生かした、大分市の魅力向上につながる公園整備が必要であると表現させていただいております。</p>
事務局	<p>中間提言書の案の説明については以上になります。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま説明をいただきましたけれども、先ほど事務局から冒頭ご説明がありましたように、本日も議論いただく中間提言書につきまして、最終的な確認は私のほうでとりまとめということによろしいでしょうか。</p>
委員	<p>(異議なしの声)</p>
部会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、中間提言書の案につきまして、皆様方からご意見やご質問等を頂戴したいと考えております。</p> <p>多岐にわたりますので、このページの順番どおりに進めていきたいと思っております。最初に、主な意見(1)全体についてと、(2)快適な都市構造の形成と機能の充実というところから皆様方にご意見を頂戴したいと思っております。</p> <p>何かお気づきの点等ございましたら、遠慮なくご発言いただくようお願いいたします。</p>
委員	<p>先ほど、藤田委員から問題提起がされた新たな公共交通システムの件です。これ、かなりいろいろお話が前回と今回でされていますので、もし可能であれば追記を一項目してはいかがかなという意見を持っております。</p>
部会長	<p>事務局、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>わかりました。具体的には、新たな……。</p>
部会長	<p>そうですね、スローモビリティとかMaaSとか、そこら辺を入れるかどうか。ちょっと前向きにご検討いただけますでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
部会長	<p>そのほか、(1)(2)につきまして何かご意見等ございましたらお願いいたします。</p>
委員	<p>ハレーションとかいろいろあるのかもしれませんが、全体についてということですね。今後、超高齢社会とか人口減少社会ということと老朽化しているということで、コンパクトな都市づくりだと思</p>

	<p>います。そういう中で、私ども鉄道においても似たような状況でございまして、前回の議論で複線化をすとか、何かまだ人口が増えるような時代に向けた取り組みになっているんですけども。こういうのはいかがかなと。大丈夫ですか、いいんですかね。そういうところが少し気になると思いました。</p>
部会長	<p>時代的な、背景的にですね。</p>
委員	<p>バスでも一緒だと思うんですけども。</p>
部会長	<p>人口減少社会を受けたような……。</p>
委員	<p>受けた中で、交通ネットワークそのものを維持するようなことも今後は考えていくようなのがいいのかなと。これはちょっと思いましたので。</p>
部会長	<p>委員の皆様、今のご意見についていかがでしょうか。 何かございますか。</p>
委員	<p>いや。特には。</p>
事務局	<p>今の市のほうの考え方を言いますと、これまで高度経済成長期、大分新産都以降、急激に市街化区域が広がって行ってまして、もともとの成り立ちが、前回は申しましたときの小藩分立といいますが、いろんな藩が集まってできているので、一極集中していないところとかですね。今度このような状態から人口が減っていく中で、やっぱり一つ一つの地区拠点みたいなどころはある程度集約をして、その間は結ばないといけないということ、大分市全体の中ではそういう動きになるんですよ。今度また人口減少という日本全体で見ると、やはり公共高速ネットワーク網の確立というのがないと、どうしても都市の衰退を招くということで、この辺は今に来て、例えば北陸新幹線にしても、ああいうものが通っただけでかなり経済的な波及効果は出ていますので、市もそのために、豊予海峡であり東九州新幹線なりの誘致も目論んでいるところもありますので、複線化の具体的などころはちょっとあるんですが、やっぱり外との高速ツールというのは必要かなと思っています。</p>
委員	<p>もちろんそういうものは必要だと思いますし、一方で、鉄道もバスも使っていただかないと、いつまでも維持できるものでもございませんからね。そういうところは、どうなのかなと思います。まちづくりとかいうところは、そういう人口減少に備えたことに切りかえていこうというような感じですね。</p>
部会長	<p>その全体について、委員のご指摘になったところの全体的な文章の基調をもう一回ちょっと練っていただけますでしょうか。</p>
事務局	<p>そうですね。</p>

委員	あんまりそこを具体的に書くと、ハレーションもあるので。
部会長	具体的な話はともかく、もうちょっと人口減少が確実に進むという、社会のあり方を。その後に公共交通はどうあるべきかということ、ちょっと検討いただけたらと思います。
事務局	まだ交通のところの表現が少ない部分もありますので、少し検討したいと思います。
部会長	よろしく願いいたします。 そのほかに何か、(1)(2)でお気づきの点等ございませんでしょうか。どうぞ。
委員	(2)の都市構造の形成と機能の充実についてということでもいいですか。 (2)の3点目の、いわゆる中心市街地における空き地の駐車場化、都市のスポンジ化等のことですけど、これの部分で、民間の空き地の話になっているんですかね、これは。この書き方としては。
事務局	そうですね、基本的にはそうです。公有地についても当然これには含まれると思いますけれども。
委員	いわゆる公有地の問題がこれから、荷揚、22街区、54街区等がこれからいよいよ動き出すわけですかね、その辺のところの分と、民間の分はもちろんわかるんですが、そこら辺は別に謳う必要はないのかなと思うんだけど、どうなのかな。
事務局	個別の案件……
委員	個別の案件ではあるんだけど、いわゆる公共有休地の活用云々も、当然都市基盤の中で大きな面積を占めてくるだろうと思うので、そのところは謳わなくていいのかなと、ちょっと今気がついたんですけどね。
部会長	今、全国的に公有地の利活用というのは、大きな都市計画上の問題にもなっていますので、ちょっとその点もあわせて、書き込むかどうかあわせて、もう少し検討していただけますか。
事務局	表現できるかどうかを考えてみます。
部会長	ありがとうございます。 そのほか何かございますでしょうか。 あと、私のほうから、ちっちゃいところなんですけれども、各部会があって、全部で七つあるんですかね。この「取組」という漢字ですね。「み」が最後に要る「取組み」、今回は「み」がないですね。「取組」という漢字だけですけれども、「み」が入ったり入らなかったりする部会があっても困りますので、何かそこら辺で部会間の調整等を思うんですけれども。
事務局	総合計画に関しては、文言のひな形を全部つくっております、それに修正をかけるようになってい

	ます。
部会長	じゃあ、「取組」は「み」は入らないということで。
事務局	「み」は入らないです。名詞に関しては「取組」はもう「み」は入らないと。動詞になる場合は、「り」と「む」が入るといふ。
部会長	決まっているんですね。
事務局	使い分けしています。
部会長	<p>じゃあ、統一的になっているかどうか、確認ですけれども、次のページの丸の上から四つ目の第4次産業革命の「4」ですけれども、普通、国語新解等では、漢字の間に挟まれる数字は漢数字を使いなさいというのが適切な使い方なんですね。漢数字の「四」を使う。漢字と漢字の間に含まれる数字については、算用数字ではなくて、漢数字を使いなさいとなっているんですけれども、そこら辺はどうなっていますでしょうか。</p> <p>全部ですね。</p> <p>ほかの部会とも合わせてですね。</p>
事務局	はい。ちょっとその辺はまた整理したいと思います。
部会長	それと、その二つ下に、IT人材とありますけれども、その何行か上に、ICTとありますね。ICTとITは違う意味でここは使っているのかどうか。同じ用語でCT人材の育成なのか。そこもちょっと統一する必要があるかなと思います。これ、わざと使い分けしているんですかね、人材の場合はITで、活用はCTなのか、ちょっとそこら辺も検討をさせていただけますか。
事務局	はい。確認します。
部会長	<p>では、次に行きましょうか。それでは(3)番、安定した生活基盤の形成についてというところに移らせていただきます。ここでお気づきの点等ございましたら、お願いいたします。</p> <p>上から2番目のポツの1行目、空き家等についての「等」は、ここでは何を指しますでしょうか。「今後は空き家が増加することが予想されるため、空き家等について」とありますが、この「等」は空き家以外に何か考えられるでしょうか。</p>
PT	そうですね。今、空家等対策計画というものがあまして、そういったものの中で、そういう表現を使っているんですけれども……。
部会長	それはわかるんですけれども、この場合は具体的に「等」は何を指すのかなと思って。空き家以外に考えられる、増加することが予想されるものは何か具体的にあるのかなと思ひまして。

PT	「空家等」と使う場合が、大分市空き家等の適正管理に関する条例や、老朽危険空き家等の除却促進事業に関するもので表現しておりまして、その表現をちょっとここでは使わせていただいているんですけども。
部会長	今、委員がおっしゃったように、空き工場とかもあるということですか。
PT	そうですね、はい。
部会長	はい、わかりました。
事務局	住宅に限らずということですね。
部会長	委員の皆様、何かお気づきの点がありましたらお願いいたします。どうぞ。
委員	追加したらどうかなの案件ですけど、部会長がよく Park-PFI の話を部会の中でされていて、この計画の素案でも修正がかかって、そういうことを検討するというように私たち聞いていますので、提言にもそのまま入れたらどうかなと思います。 それと、今回と前回BCPの話がされましたね。大分市として、上下水道BCPがありますよ、そういう話は当然すばらしいことだなと私も思っておりますが、民間事業者のBCP策定率が芳しくないというご意見だったかと思いますが、ぜひ民間の、どういう書き方になるかちょっと私もお答えは難しいところだと思いますけれども、私もそういう商売をしていますので、ぜひBCPの民間の普及とか、これも議論が行われていることをここに残していただければなと思います。
部会長	ありがとうございます。事務局のほうでいかがでしょうか。 最初の点は、Park-PFI 等の民間活用という文言を入れるかどうかという点と、民間事業者のBCPをもうちょっと積極的に書き込んでよいのではないかとご指摘ですが。
委員	中央会が、全国中央会が推進しているんですけども、大分のBCPIについても、大分の中央会の事務局に言ったんですけど、担当がまだはっきりしていないんですよ。全国的な動きを大分でもやろうよって言ったんですけど、そこら辺、担当者がまあ、前はいたらしいんですけども、今はっきりしていないですね。一応、会長には進言をしているんですけども。
部会長	民間事業者のBCP策定率は非常に低い段階というか、まだこれからというところですね。
委員	それが、一昨年だと北海道の胆振地震で、印刷会社を作っていて、東京のところと連携していたものですから対応できたというところ、そこら辺を言うんですけどね。
委員	熊本のときは印刷業者がなくて対応できなくて、どうのこうのっていうのがありましたけど。

部会長	事務局いかがでしょうか
委員	先ほどのPark-PFIについては、問題なく書き込めるといいますので修正をかけたいと思います。BCPの取り組みに関しても、素案のほうに危機管理体制の強化という言葉を入れていて、そこにBCPのこととか記載をしておりますので、それにつながるような提言を考えたいと思っております。
部会長	どうぞよろしく申し上げます。 他にはありませんか。
委員	今の上水道、下水道のところ、お話があったと思うんですけど、この表現だけではちょっと何か私も弱いような感じが実はするんですよ。というのが、要は、これから災害等の多発が考えられるわけですね。そういう多発する災害対策に対して、やはりこれも個別に耐震化、老朽管をこの中にある程度入れ込んだほうが、より身近に感じてくるんじゃないかなという感じがするので。小さな、細かなところまではもちろん必要性はないと思うんですけど、そのぐらいのことを入れたらどうかなどは思うんですよ。BCP云々はちょっとやはり細かな具体的なものになってくるので入れる必要はないと思うんですけども、その辺のところはどうでしょうかね。 非常に特に今、洪水とかいろんな問題で1週間2週間とか、1カ月近く物がとまったりとかするじゃないですか。だから、どうしても災害対策っていうのは、やっぱりこれから大きな問題だと思いますので。
委員	要するに、それはこっちの立場で擁護するというわけではないけど、今、下水道の普及率が低いでしょう。これを引き上げようということで、一応これから取り組むんですけども、その中で今回、三佐地区がデザインビルド方式で、来月かな、入札があるんですけど、そこで集中的にやっ払いこうと一応考えてもらったんですけども、問題は施工業者の数が少ないんですよ。それで、下水道をすときに、発注はするけれども不調不落が続いている。
委員	できないですね、今ね。
委員	そこをどうするかっていうのが、我々業界と発注者側との交渉というか、問題になって、今共有はしているんですけども、それをどう対応するかっていうのが課題です。
委員	だから、その素案の部分では当然、災害対策BCP云々は今度入れていただいておりますから、その辺はいいと思うんですが、ちょっとその辺がこれでは弱いのかなという感じを私は受けたんですけど。
事務局	素案をお持ちであれば、55ページからの第3部で、安全安心を身近に実感できるまちづくりという防災安全の章があります。57ページに、災害予防対策の推進という枠の中で、それに関することが記述してあります。

委員	入っているのかな。
事務局	はい。防災の方にあるんですが、効果的な防災対策を図るため、防災拠点となる施設の整備や見直しを進めるとともに、計画的に道路、河川、公園、緑地などの施設設備を進め、道路施設や特定建築物などの耐震化を促進しますと。ちょっと防災のほうに書いています。ここにBCPという文言は無いので、防災のほうにもこの辺の話はすり合わせをしたいと思います。
部会長	ぜひBCPは入れてほしいですね、確かに。やっぱりこれから大きな災害が起こるということを前提にした対策を打つほうがいいと思いますね。温暖化等の進行で、これまでは考えられなかったような時間雨量が、100ミリというのが当たり前のように。
委員	洪水もそうですけど、いわゆる南海トラフの関係で、必ず30年以内にはというのが出ているわけですから。出ている中でそれを入れていかないと、現実的にはやっぱり厳しくなるから。そういうふうに思いますので、ぜひその辺も含めて。
部会長	ぜひよろしく願いいたします。ありがとうございます。 ほかにはいかがでしょうか。よろしいですか。
委員	(なしの声)
部会長	また最後にこのような時間をとりたいと思いますので、よろしく願いいたします。 今、皆様方からいただきましたご意見等を踏まえまして、事務局と最終的な中間提言を私のほうで決めさせていただきたいと思います。 なお、修正した中間提言につきましては、先ほど事務局からご説明がありましたように、今日から10日後の11月25日に、市長への中間提言報告会というのが催されますので、そこで私と副部会長とで提出して意見等申し上げたいと思います。ということで、ご了承のほどよろしく願いいたします。 それでは、最後の議事、その他につきまして、事務局にご説明お願いいたします。
事務局	その他としまして、今後の最終提案書の進め方についてご説明させていただきます。 先ほど委員の皆様にご議論いただいた中間提言を受けて、事務局側で総合計画の原案を作成いたしましたので、来年の1月に市民に対してのパブリックコメントを行います。 そのパブリックコメントで出た市民からの意見を踏まえて、最終提言書というのをまとめることになるんですけども、その最終提言書をまとめるに当たっては、再度部会を開く時間的な余裕というのが、ちょっととれないような状況でございます。 そこで、まことに勝手ではございますけれども、今後は委員の皆様と個別に文書ですとかメールでやりとりをさせていただきまして、中間提言書をもとに、こちらのほうで最終提言の案を作成しますので、そちらを送付させていただいて、それに対する皆様のご意見をいただきたいと考えております。

部会長	<p>それをまたまとめまして、最終的な確認を部会長に行っていただくというような形をとらせていただきたいと思います。そういった形での進め方になりますので、よろしく願いいたします。説明は以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまご説明いただきましたように、最終提言のほうは、来年の1月のパブリックコメント等を踏まえまして、最終的に私のほうで調整等をさせていただければと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
委員	(異議なしの声)
部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、実は本日は部会として皆様にご集まっていただき最後となりますので、一言ずつ。今回、委員としてご出席をいただきましたので、感想等を皆様方に述べていただきたいと思います。</p> <p>一言でも二言でも構いません。</p> <p>それでは、申しわけありませんが、時計回りで、今回の委員としてのご感想を述べていただきたいと思います。</p> <p>では、よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>4回にわたる会議の開催ありがとうございました。全て出席をさせていただくことができました。本当に事務局、そしてプロジェクトチームの方ですかね、委員の皆さんにご苦勞をおかけしました。ありがとうございました。</p> <p>若輩でありながらいろいろご意見をさせていただきまして、失礼もあったかなというふうに思っておりますが、私自身いろいろ業界の諸先輩方にお話を聞かせていただいて、大変勉強になったなと思うとともに、1月から、前の会議でも申し上げたとおり、大分青年会議所の理事長職を1年間お預かりをするに当たっていろいろな勉強をする中で、リダンダンシーの話とか、国土交通省の提言などいろいろ見たりしておりました。こうやって、こういう形で大分市の私たちが住んでいるところでも、しっかりと国と大分市が手を携えながらやっているということが、この計画の中にあらわれているのがよく理解ができて、本当にいい経験をさせていただいたなと思っております。</p> <p>そして、部会長にはいろいろご配慮をいただきましてありがとうございました。また、ここの皆さんとどこかでこのような話ができることを楽しみにしております。ありがとうございました。</p>
部会長	では、次の方お願いします。
委員	<p>今回の第2次の基本計画につきまして、第1回目は参加できませんでしたけれども、第1次の時から関係をさせてもらいました。この間、佐藤市長にも言っていますけれども、夢のある大分市ということで、我々の業界からの提案を聞いていただいて、これからも住みよい大分市を目指して検討できる会に参加できてよかったかなと思います。</p> <p>これからも市の方と意見交換をさせていただきながら、また業界発展のために頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>

部会長	ありがとうございます。続いて、お願いします。
委員	<p>私こそ本当に申しわけございません、4回中、フルに参加したのは今日だけでございまして申しわけございません。期待に沿うことができませんでした。</p> <p>参加させていただきまして、ほんとう私も勉強になりました。私も大分に来て半年にもなりませんので、大分市のためにJR九州としてもしっかり頑張っていきたいと思っておりますので、またこういう機会がありましたら、ぜひ参加させていただきたいと思っております。本当にありがとうございました。</p>
部会長	ありがとうございました。
委員	<p>皆さん、大変ありがとうございました。私も今、議会の建設常任委員会の委員長を仰せつかっておりますので、これから中核都市の大分にとって一番大事な分野の都市基盤部会ということで、実は大変参考にさせていただくお話がたくさんございました。これから委員会の中で当然また議題として上がってくる内容もありますので、その辺はしっかり皆さん方の意見をいただいて、ぜひこれからの議会の中、あるいは市政全体の中でも生かさせていただければなと考えております。大変いい勉強になりました。どうもありがとうございました。</p>
部会長	ありがとうございました。
委員	<p>一般市民の公募から応募したんですが、もっと自分の中では気楽な会議のイメージがあって、毎回毎回緊張の連続で、何が何だかわからない状態が長く続きましたけれども、それなりに勉強できたことが自分の中でよかったかなと。今まで何十年も大分市内に住み続けて、このような形でまちがつくられていっているんだなということが勉強になりました。ありがとうございました。</p>
部会長	ありがとうございました。
委員	<p>私、4回のうち2回しか出席できなかったものですから申しわけないなと、まず思っております。私は公共交通のバス関係なので、冒頭、前回出席したときに、バスは厳しいというふうに申し上げました。鉄道さんは、ご存じのように、昔はJRの線を引けば日本地図ができたような、日本全国を網羅されていたんですけれども、バスも同じように昔は、バスの路線を書けば大体まちとまちがつながって、いいような雰囲気だったんですが、今はもう、ご存じのように、バスというのは瀕死の状態といえますか、非常に厳しい状況が続いております。公共交通の会議なんかでもお話しするんですけれども、要はバスが走らないところには嫁もやれんというふうなくらい、やはり今厳しい状況になってきています。</p> <p>交通弱者という方をどういうふうにして運ぶかというのは、県民、市民全体でやっぱり考えていかないかんのかなと思っております。こういったことで、公共交通のことをだいたい書いていただいておりますので、これで良い方向になればいいなと思っております。今後、何かあれば私どもも協力したいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>

部会長	<p>ありがとうございました。では、お願いします。</p>
委員	<p>副部会長として携わらせていただいて、どうもありがとうございました。私もほんとうに、九州の出身で、大分市には家族と一緒に住んでいますので、やはり大分市が非常にどんどんよくなると、みんな楽しく暮らしていけるというような、そういうまちづくりにこういった形で参加させていただいたことは非常に参考になりました。どうもありがとうございます。</p> <p>ほんとう微力ながらですけれども、部会長を支えさせていただきまして、ほんとうに部会長さんは会議を円滑に回していただきまして、この後も提言書の調整等で大変だと思いますけれども、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>また引き続きこういった形でいろいろ皆様ともおつき合いさせていただければと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>最後に私のほうから感想を述べさせていただきます。</p> <p>まずは、本部会には各界各層の第一人者の方々にお集まりをいただきまして、なおかつ、大変貴重なご意見等かつ積極的にいただくことができまして、会を盛り上げていただきましたこと、部会長として心より御礼を申し上げます。私、4回の委員会いずれも非常に楽しく司会をすることができました。これもひとえに委員の皆様方のご協力のおかげと思っております。心より感謝をしております。</p> <p>一番うれしかったのは、毎回毎回事務局を困らせるぐらいの意見を出していただいて、今回も96に上ると。さぞかし事務局は、まとめて、これへの対応策を考えるのにご苦労されたのではないかなと思っておりますが、それはひとえに皆様方が大分市を思い、より魅力的な大分市をつくっていきたいという、その証左というふうに思っておりますので、これも事務局の方々にもよい思い出になればなと思っております。</p> <p>今後、パブリックコメント等を含めて、市民の方々のご意見を踏まえ、最終的には2月の完成を目指して、もう少し私のほうでも尽力をしていきたいと思っておりますので、最後までひとつ。全体会も後ほど紹介あるかと思えます。皆さん方もう1回集まる場があるかもしれません。</p>
事務局	<p>まだ、本決まりはしていませんけれども、一応全体会を開くようには考えておりますので、そのときまたご案内をさせていただきます。</p>
部会長	<p>それもありますので、もしまたアイデアがひらめきましたら事務局のほうにご提示いただければと思っております。</p> <p>つたない司会進行でしたけれども、非常に楽しく4回、5回と過ごすことができました。委員の皆さん、あるいは事務局の皆さん、心より御礼を申し上げまして、部会長としての挨拶とさせていただきます。ほんとうに皆様どうもありがとうございました。</p> <p>では、事務局にお返しいたします。</p>
事務局	<p>部会長、議事進行ありがとうございました。</p>

